

(一般社団法人) 日本樹木医会岡山県支部会報「樹来 July」

第2号 (平成27年7月)



目次

1. 巻頭言
2. 平成27年度行事予定
3. これも地球温暖化の影響か？
4. 岡山県の樹木医について
5. 平成26年度行事報告 (主として研修会報告)
6. 新人の紹介
7. 最近 岡山県支部及び会員で実施した内容
8. 会員からの投稿
9. 続《菌界考》(連載)
10. 樹木医受験を目指して
11. 書籍等の紹介
12. 会員名簿および賛助会員名簿
13. 編集後記
14. 賛助会員入会案内

1. 巻頭言 【適材適所 → 結束 → Good Job】



岡山県支部長 佐藤 真也

この度、新規就任しました。何卒宜しくお願い申し上げます。そして、弊誌を御覧頂き、誠にありがとうございます。

さて、巻頭言として、以下、述べさせていただきます。

” Good Job” 業績を納得して頂き、「質」を認められてはじめて受けるすばらしい言葉です。これは、人と人との信頼ある心のつながりにおいて、次なる樹木医療業務を生みます。

そして、これは、支部員の技術的レベルアップ、モチベーションアップにもつながります。しかし、これらは、支部員相互の「結束」があつてこそみえてきます。「結束」が明確に表れるのは、それぞれの「場」への出席率です。

出席をすれば、第一に自発的な心を込めた挨拶ができるという事です。そして、更に、今まで以上にそれぞれの「場」で支部員の専門分野を生かす「適材適所」での行動です。私たちが一番身近な「町内会」でも、影で不平不満を言う方々はいらっしゃいます。発言したい事は、表でちゃんと言い、皆で考え改善していけばいいのです。

心をひとつにして、益々、風通しの良い、そして、” Good Job” と言って頂ける岡山県支部にしていきましょう。

2. 平成27年度行事予定（久保）

支部の研修の担当も変わり、新しい目で本年度の行事予定を下記のように企画します。

(1)旭川古京護岸工事に伴うサクラ治療（9月、担当：久保）

旭川左岸の護岸工事で現在の土表面から約50～60cm位の土盛とブロックを張る工事が行われる為、ソメイヨシノの根を張れる場所に誘導する。

(2)後樂園古木治療（イチョウ実生自生地）（9月、担当：片岡）

後樂園で最も古い樹であろうと言われるムクの木の治療で土壌改良とキガタメ剤による補強を施工。

(3)半田山 サクラ治療後の処置（9月、担当：魚井）

以前に行ったサクラ治療後どのような結果になっているか検証し、その対策を考える。

(4)岡山市緑化フェアへの参加（10月、担当：研修委員）

今年度も西大寺緑化フェアに参加を予定しています。
パネル展示のみの参加になりますが、より多くの会員の来場をお待ちしています。

3. これも地球温暖化の影響か（永富）

ほぼ毎日近所の散歩をすることを日課としている。以前から気になっていたことであるが、散歩する道すがら咲いている、ヒメジョオンである。

下の写真は私が散歩するあぜ道に咲いているヒメジョオンである。



何が気になっているかといえば、今（平成26年11月中旬）なのに今が盛りと咲き誇っていることである。

この花は北アメリカ原産で日本各地に分布しており、開花期は6月から10月といわれている（街・野の野草：小学館）。そこでアメリカ北部のシカゴの最低平均気温を調べ

ると、6月は14.2℃、10月は5.7℃である。11月になると最低平均気温が-0.2℃となっている。

日々の散歩で花がしぼんで頭を垂れる数が増えてきた。



左の写真は平成26年12月9日に撮影したものである。開花しているものもあるが、全般的に枯れていく状態である。最低気温は数日前から氷点下になっている。おそらく、今の時点で何を指標としたらよいのかわからないが、一つとして最低気温の低下状況に注目すると、倉敷市では11月15日現在、2.9℃であった。12月7日

には氷点下になっていた。

おそらく、原産地の温度傾向からみると、最低気温が氷点下になると開花できなくなると推定する。当初は温暖化の影響と考えたが思い過ごしか？

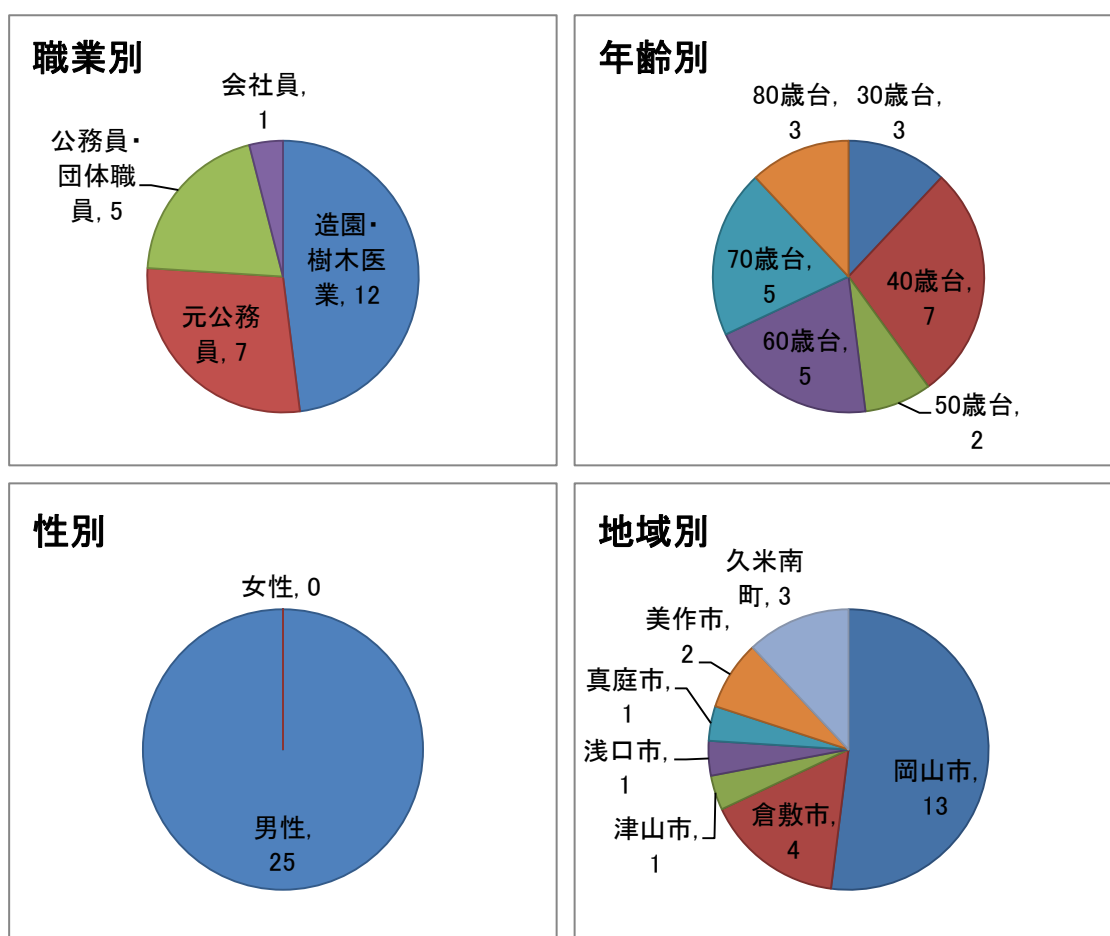
近年、温暖化ガスによる地球温暖化で平均気温が上昇しているといわれ、地球の気候変動による被害が各地で発生している。今回の花を観察して、これらの花が時を忘れて？咲き誇っている姿はいかがなものか。散歩途中で目を楽しませてくれるのは、私たち人間にとってはよいと思うのだが。

樹木医として、植物の生理に与える地球温暖化の影響を今後どのように対処すればよいか悩むところである。

4. 岡山県の樹木医について（魚井）

現在、岡山県支部には 25 名の樹木医が在籍しています。平成 3 年に樹木医制度が発足して今年で 24 年になり、ほぼ毎年 1 名の樹木医が誕生していることとなります。全国では、毎年約 120 名が合格しており、全国における岡山県の人口比率（約 1.6%）からすると樹木医の人数はやや少ないと言えます。

岡山県の樹木医の職業、年齢、性別、地域の構成を下のグラフに表しました。職業別では、造園業が最も多く、次いで元公務員、公務員・団体職員、会社員の順となります。年齢別では、40 歳台が最も多く、60 歳以上が過半数となっています。性別は全員が男性で、まだ女性の樹木医は誕生していません。地域別では、岡山市が半数を占めています。



将来女性の活躍を推進する社会において、岡山県でも女性樹木医の誕生が待ち望まれています。また、樹木の身近にあって目が行き届くよう、県内各地に樹木医が広がることも期待されています。

これから樹木医の受験をお考えの方は、どうぞ岡山県支部までご相談ください。

5. 平成26年度行事報告（主として研修会報告）（久保）

(1)巨木観察会

①平成26年7月21日 参加者17名 午前8時出発 午後6時帰着

②半田のケヤキ、凱旋サクラ、醍醐のサクラ、岩井畝のサクラ観察

③各地で樹木医の案内、説明

(2)県北での研修会

①平成26年12月7日 久米南町塩の内集会所 午前：座学 午後：現地観察

②座学研修

- ・植生と地質（国忠前支部長）
- ・生物進化の考証と有用微生物の利用（当支部 下川樹木医）

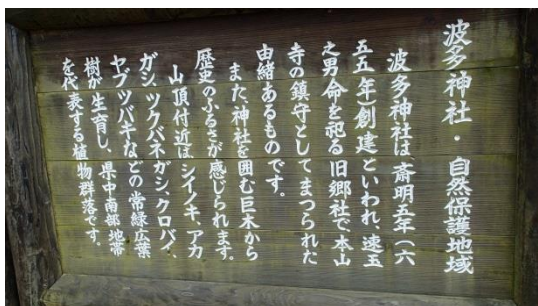


平成26年研修会の様子を写真で示す。
国忠支部長の植生と地勢との関連を話された。例えば、県北には塩基性土壌特有の植物が生えているなど。



続いて、下川樹木医から土壌細菌のあれこれについての講義をしてもらいました。

昼食の後、車で移動し、フィールドワークをしました（波多神社・自然保護地域）。



最後に、民家（真鍋家）に植栽されているエノキを観察しました。



もり沢山の内容で実りのある研修でした。

6. 新人の紹介

(1) 梶原 利博

みなさま はじめまして

24期の梶原利博（かじわら としひろ）と申します。久米南町在住、高知県出身、1957年生まれです。職場は岡山県森林管理署勝山森林事務所で森林官をしています。

わたしと樹木医との出会いは、6年前環境省に出向していた時に遡ります。休暇村奥大山（当時は鏡ヶ成）から、野営場内の立木が年々枯損して困っている原因は何だろうとの相談を受けました。

木の相談なら「植木屋さん」との発想で、「山都屋」を探し当て山本（利）さんと魚井さんのお二人に野営場まで診断にきていただいたのが最初でした。お二人はすぐさま「野営場造成時に平地を作るため盛り土をしたのが原因」とのこと。根元に設置してある酸素管をみて、「こんな根元に置いても意味がない」等々の指導を受け、へえ〜、樹木医ってすごいなあ。一度試験を受けてみようと思ったのです。

以来、受験を重ねるも「正解率50%以下です。もっと研鑽を積むように」との悲しい通知が2回。3度目の正直でやっと合格することができました。

これから色んな機会を捉えて学習と経験を重ね、ペーパー樹木医からの脱却を目指していると思っています。どうかよろしくお願い致します。

(2) 石原祐軌

この度、新しく（一般社団法人）日本樹木医会岡山県支部に入会しました、23期の石原と申します。平成25年度は長野県支部に在籍しておりました。独立行政法人森林総合研究所農地整備センターにて造林の仕事をしており、森林林業に深く関わりながら生活をしています。

岡山県支部には平成26年4月からお世話になっておりますが、この間、巨木観察会に参加させて頂きました。醍醐桜、岩井畝の桜、半田山のケヤキ、がいせん桜を案内して頂き、さらに治療の様子まで伺うことができました。

特に、がいせん桜のピートモス充填工法の不定根を誘導する治療法に興味深く、印象に残っています。

自分自身とても未熟ですので、今後も岡山県支部の活動に参加しながら、知識と技術を高め、さらに支部の皆様と交流を深めていく考えていますので、よろしくどうかご指導お願いいたします。

7. 最近の岡山県支部及び会員で実施した内容（片岡）

（1）相原公園ソメイヨシノ樹勢回復事業への取り組みについて

岡山県井原市の相原公園(嫁いらず観音参道)におけるソメイヨシノの樹勢低下が近年、急激に進行したため、井原市より、平成25年の春、(一社)日本樹木医会岡山県支部(岡山県支部と表記)に相談がありました。

それを受けて、平成25年7月から9月に、地上部の樹勢診断及び地下部の土壌診断を実施しました。その結果として、7割近くのソメイヨシノが衰弱もしくはその傾向にあるとの結果が出ました。この状況を分析・検討した結果、平成26年4月から9月にかけて、治療を実施しました。作業は、地元の造園業者が行い、岡山県支部としては、監理・監督業務を井原市より委託されました。

治療内容として、以下の工法を実施しました。

掘削、化成肥料による土壌改良

①【掘削（大）】

0.5m 角の深さ 0.5m 程度の掘削を、対象樹木から 2.0~3.0m 離れた円周上に 1.0m 間隔で行い、粉炭と高度化成肥料（1ヶ所当たり 1.0kg）を投入し、改良した。また、1本当たり、4.0~6.0m²の土壌表面に、高度化成肥料を散布（0.3kg/m²）した。

②【掘削（小）】

直径 0.15m、深さ 0.5m の縦穴を 1.0 m² 当たり 4ヶ所掘り、その穴に粉炭を充填し、上層に高度化成肥料を散布（0.5kg/ヶ所）し、埋め戻した。

③空気圧入による土壌改良

樹幹投影部に空気圧入機により、1.0 m² 当たり 4ヶ所に深さ 0.5m で圧縮空気を注入し（8.0kg/cm²）、土壌をほぐし、その挿入跡に直径 1.0cm 程度の割竹（L=0.3m）を 2本入れ、上層に高度化成肥料を 1穴当たり、0.3kg 投入した。また、1本当たり、4.0~6.0 m² の土壌表面に、高度化成肥料を散布（0.3kg/m²）した。

④剪定及び伐採

日照と通風の確保のため、支障となる枝を剪定した。また、病虫害による、衰弱枝や羅病枝も切除し、防水材を塗布した。そして、樹勢の衰退が著しいものは伐採した。

さらに、幹部に腐朽が確認できる樹木については、殺虫剤（MEP 剤希釈液）を注入し防水材で閉口した。

今後、岡山県支部としても、ソメイヨシノの状況を観察し、継続的に治療を実施していく予定です。

8. 会員からの投稿（大山、佐藤）

（1）樹木医としての現状（樹木医のボランティア活動）（大山浪雄、3期）

私は森林総合研究所で樹木生理を中心に40年間の研究生生活を終え、1988年4月に岡山市に住みつき、満87才になりました。1993年度に樹木医に認定されてからは、ボランティア活動に生きがいを感じています。その主要なものに次の2つがあります。

1) 龍のロググリーンシャワー公園を愛する会に関与し、森林浴と里山の保護活動を地域の人々と一緒に楽しんで来ました。

2) 岡山市シルバー人材センターに登録を続け、植木の剪定と樹木診断を続けています。この仕事の中で常に出会うものに、マツの材線虫病と赤斑葉枯病、樹幹の腐朽障害、植木の衰弱対策があります。材線虫病防除の基本には抵抗性マツの植え付け、赤斑葉枯病の防除にはトップジン M1,000 倍液の連続散布、樹幹の腐朽防止には枝打ち痕にトップジン M ペーストを塗布しました。衰弱木の樹勢回復には、活力剤の HB-101 の 1,000 倍液を数回灌水すると共に、肥料としてマグアンプ K 粒剤を土壤に混入しました。これらの手法が参考になれば幸甚です。

（2）生業に役立つ樹木医（佐藤真也、8期）

サン・テグジュペリ作「星の王子さま」の一節に、こうあります。『心』で見なくちゃ、物事はよく見えないって事さ。肝心な事は、目に見えないんだよ。』。

あなたは今、「息」をされています。生きていらっしゃるからには、「財・サービス」の入手は欠かせません。さてその場合、何を「判断基準」として購買行動をされていますか。

①何をさしおいても「安価」であるから。

②価格に見合う「品質・内容」であるから。

③前項②の追加として「販売側・提供側の心」が、こもっているから。

私は、③を目標に据えて、日々の生業で庭師をやっております。個人事業主ですので、施主様の御要望・御不満を直接受けさせていただき、仕事をおまかせいただける事は、何よりの喜びであります。

しかしながら、そこに存在する「実施しにくい心のつながり」の維持継続が、いかに大変な事かを、思い知らされております。

仮に、100人の施主様がおられるとすれば、私からして、1対100ですが、立場を逆にすれば、1対1なのです。電話1本が、なかなかできぬ事が多く、いつも申し訳なく思う次第です。

施主さまとの「心のつながり」を良好に保ち発展させていく事が、私の生業であり、これに「樹木医資格」が、とても役立っています。それは、精神面に於いてであります。「酸素」を吸って生き、喜怒哀楽を感じとれる事の感謝は、「光合成」をしている植物界に対してすべきです。その植物界も動物界・菌界との共生で、この地球上に存在して

います。

将来が見えぬ世の中だからなおさら、この先の仕事や日々の生活に気持ちが走り、長期展望できる人は、少数派です。数百年単位での思考をすれば、大昔から生きて立っている樹木と心をかよわせる事ができます。もっと言えば、遠い将来の子孫の為に、「目に見えぬ放射性物質」に頼る経済活動を直ちに是正する方向にして、良好な地球環境を残すべきであります。

【ひと休み】

先日（2015.2.15）山陽新聞朝刊さん太タイムズに「龍のロググリーンシャワーの森にいるタテジマカミキリの写真」が掲載されていました。

下の写真はその様子です。



インターネットで検索したタテジマカミキリについて紹介します。

分布は本州、四国、九州、対馬、中華民国。寄生植物は、カクレミノ、ヤマウコギ、センノキ、ヤツデなどの生木。体長は17から24mm。成虫で越冬するそうです。

成虫はカクレミノやヤマウコギの樹皮や葉を後食し、幼虫もこれらの樹の生木

の枝に穿孔する。暖地では新成虫は夏季に羽化して寄生植物やその周辺の樹木に張り付いて越冬し、翌春に交尾、産卵する。寒冷地では新成虫は夏季に羽化せず、翌春まで寄生植物内で越冬するそうです。

この写真はインターネットからのタテジマカミキリです。



9. 読み物

清く・貧しく・美しく

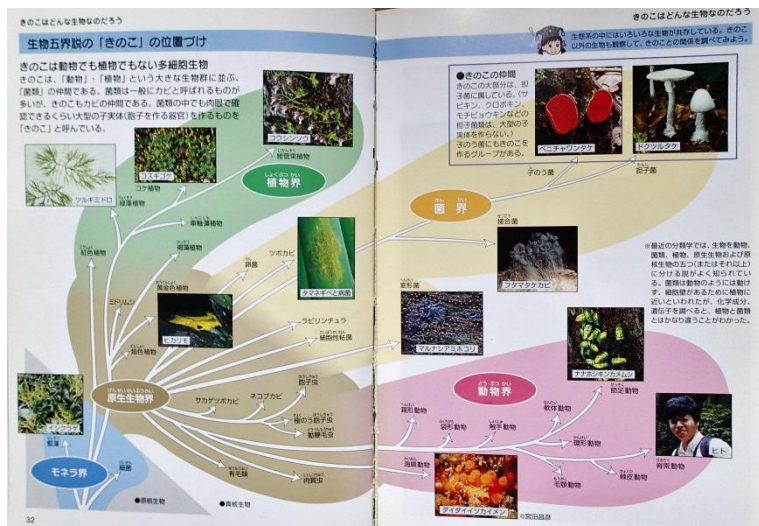
〈 続『菌界』考 〉

(越智)

「マツは清く・貧しい環境が好きなのか」 岩だらけの瀬戸内の小島。切り取られた造成地の斜面。降った雨はアツという間に流れ去り、栄養分は望むべくもない風化花崗岩の斜面。そうした所に今でもマツの若い苗が翠の葉を繁らせて育っているのを良く見かける。「樹来創刊号」でこのことに触れ、続きを書いてくれてもええよ～(笑)の依頼。

冒頭の課題に自問する日々「マツは清く・貧しい環境が好きなのではないね・・・」出来れば他の木々や草のように富栄養で保水性に富んだ土でぬくぬくと暮らしたいのだけれど、そうした環境には多くの敵がいて、熾烈な生存競争の中で勝ち抜かなければ生きられない。マツはまるで平家の落人のように敵のいない新天地を探して彷徨い続け、他の木々には生きられない厳しい清貧の地を選んだ。

彼ら植物にとって食料は自給可能なので、問題は水・そして植物の骨格や細胞を作るためのN・P・Kなどの化学物質の取り込み。富栄養で保水性に富んだ土なら、楽ちんだけど……。長い進化の歴史の中での彼らの選択肢は、元は敵だったかも知れない菌との共生。菌はマツの根から食料を分けて貰い、マツは命の水とN・P・Kなどの取り込みを手伝って貰って共生する道。これで、もう敵のいない環境で生き延び、穏やかな日々が送れる筈だったマツ。



このマツの誤算は、共生関係を結んだ相手の菌根菌が他の悪玉菌にメチャ弱いこと。共生菌根菌が死滅してもマツがすぐ枯れる訳ではないけれど、相棒がいないと寂しいのか、根が他の菌に苛められるのかだんだん弱ってくる。弱って抵抗力のないマツはマツノザイセンチュウの侵入を許すとアツという

間に枯死する。以上、2014年1月小川真さんのエッセイともいえる著作との出会いがあり、ここ数年間のField workと友人の助言を重ね合わせ一年かけて発酵させた「マツと菌根についての考察の私見」2015年、元旦の更なる妄想。マツを含めた緑の木々・草・シダ・苔などの植物界とヒトを含めた動物界との間にある菌界。この菌界は、ほぼ我らの目に触れることはないミクロの世界。そしてこれらの原点は、数億年前は、すべてモネラ界に続く原生

生物界で繋がっていて、進化・分化してきた。(左図 きのこ博士入門)

38 億年という地球生命史の果ての今現在。たかだか 67 年生きただけの私にとっても、これまで動物界は植物界に依存して、一方的に略奪し食べ、餌にしていると考えていたのだけれど、ある日の BBC の「地球伝説」を見ていて植物も動物を巧みに利用して生き延びた進化の歴史があり、それが花であり、実なのだとその放映。知らなかった訳ではないもののメチャショックを受けた。更に進化論的には小麦や米などの栽培植物は、彼らが生き延びるため人類を利用して進化しているとも考えられるのだと・・・羊も牛も犬もネコも 利用されているのは彼らではなくホモ・サピエンスなのかも知れないと(笑)

「カビ・キノコが語る地球の歴史」(小川真著)では菌界にも弱肉強食の歴史があり、寄生・半共生・共存の関係性の中で、今ある菌類は全て命をかけた生存競争の結果であり、負け組は絶滅し、勝ち組が生き残って来た。ただ勝ち組として今も生き残り繁栄している菌は、何らかの形で共生・共存関係を構築しているものが多い、マツの菌根菌のように敵の少ない環境を求めて適応することで生き延びて来た種も多いものの菌を切り離しては説明できない。そして攻撃性の強い菌は長い生命史の中では、餌となる相手を滅ぼし、自らの絶滅を招いたという。

森を切り開き、化石燃料をエネルギーに変えて地球環境を変えるほど繁栄してきた人類の行く末。果たして共存共栄の道はあるのか。今の筆者の理解では「植物界なくしてその道はない」とも思え、「菌界を無視したその道もない」というにも思える。エボラ出血熱・デング熱の恐怖 人類史を書いたジャレド・ダイヤモンド著「銃・病原菌・鉄」を読んだのは、もう数年も前のこと。共存・共生そして共栄。 Field の中に隠されている生命の謎を探し解き明かすためには、ともかくも「外へ出て、穴を掘り、木に触れよう」 by ALEX L. SHIGO 「現代の樹木医学」 2 January 2015 記

10. 樹木医を目指して 高山美尚氏(榊武田芳翠園)からの投稿(久保)



私が樹木医を目指したきっかけは、今の会社に入社し樹木医の方とお会いしたことからです。元々、樹木医というものを聞いたことはあったのですが、実際どういったものかが全くわかりませんでした。最初は偉そうな政治家?の様な人をイメージしていました。

ところが全く違い、僕らと同じ仕事をし、何事にも積極的で行動的な姿勢に驚き、興味を持ちました。さらに、その方を知っていけば、まさに樹木の専門家といった知識を持ち、謙虚で質問には笑顔で答えてくれユーモラスな人柄に憧れ、僕もこんな人みたいになりたいと思い樹木医を目指しました。 現在はその方に週 1 回の講義をして頂き岡山県樹木医会の講習にも参加させて頂きながら樹木医を目指しています。

昨年、樹木医試験を受けましたが不合格でした。まだまだ自分の力不足を痛感しました。試験は本当に幅が広くて深いので様々なことを知っておかなければならないのが大変です。

樹木医の方はこんな難しい試験を合格されているんだな、と思うとさらに憧れが強くなりました。一筋縄ではいかない樹木医ですが、皆様の叡智に近づけるように励んでいきます。

1 1. 書籍等の紹介（永富）

(1)樹木診断調査法（堀 大才編著、講談社、3800 円、A5 判(148×211)、343 ページ）

堀氏の著書「最新の樹木医の手引き（第3版）」、「絵でわかる樹木の知識」などの内容をわかり易く、コンパクトにしたものであり、本の大きさから現場に持参して使えると思う。内容としては次のようなもの。

- ・ 樹木の診断調査の意義と目的
- ・ 樹木の構造と生理

樹木の生長様式と構造、樹木の力学的適応と樹形の意味、樹木の病虫害・傷害に対する防御機構、立地環境と樹木の生育、人為的影響と樹木の生育

- ・ 樹木の立地環境と健康状態の診断・調査法

樹木の立地環境の調査法、樹木形状の測定法、樹木の健康診断・危険度の調査法、マツ材線虫病発生のメカニズムと診断・調査法、樹木の腐朽病害の分類と診断・調査法、目視による樹木の衰退度（活力度）判定と危険度判定の方法

(2)樹木のクリニック（近藤 秀明編著、(社) 全国林業改良普及協会、1000 円、178 ページ）。

小 B6 判タイプ（112×174）で「最新の樹木医の手引き（第3版）」とほぼ内容的には同じでコンパクトにまとめられている。ポケットサイズなので現場向き。

樹木の部位（葉、根、枝等）の異常と対策、環境異常（土壌、気象等）と対策、具体例として：マツ、サクラの異常と対策が細かく書かれている。

(3)まちの樹クリニック（神庭 正則著、(社) 全国林業改良普及協会、1190 円、195 ページ）。

ほぼ小 BB6 判タイプ（107×174）。実際の治療の事例が多く記載されており、またポケットサイズなので気軽に持ち歩きできる。著者個人の樹木治療の履歴書的内容。

内容は、樹木医になってはじめて、実際に樹木治療、街路樹を診断したということでした。



12. 会員名簿及び賛助会員名簿会員名簿および賛助会員名簿

登録番号	登録期	氏名	勤務先	役職
69	1 期	山本利幸		
112	2 期	下川利之	樹木病害虫診断監理	
170	3 期	大山浪雄	西日本樹芸研究所	
217	3 期	原田照太	原田樹木管理	
340	5 期	国忠征美	グローバルグリーン・クニタダ	
572	8 期	越智和信	Studio 樹羅	
590	8 期	佐藤真也	佐藤真緑園	支部長
652	9 期	可児義郎		
743	10 期	古城富士夫	古城愛朋園	研修委員
817	11 期	片岡栄一	(株) 小山庭苑	副支部長
925	12 期	鈴木肇		
1116	13 期	山本國勝		
1030	13 期	久保滋則	(株) 武田芳翠園	
1141	14 期	魚井聖一	(株) 山都屋	
1314	15 期	時光邦憲	(公財) 岡山市公園協会	事務局
1520	17 期	蔵岡均		研修委員
1553	17 期	永富壽		
1621	18 期	石部友弘	(公財) 岡山市公園協会	会報編集委員
1856	20 期	猪雅人	(公財) 岡山市公園協会	
2004	21 期	小林智	庭智	
2169	22 期	中野聡	中野庭苑	会報編集委員
2182	22 期	二瀬洋平	井原市森林組合	
2212	23 期	石原祐軌	(独行) 森林総合研究所	
2356	24 期	梶原利博	岡山森林管理署	
2347	24 期	岡坂一司	(株) OFFICE YK21	
賛助会員名	住所			代表者等
(株)武田芳翠園	〒703-8238 岡山市中区住吉町 1-80			武田 光弘
(株)山本造園	〒701-0221 岡山市南区藤田 1331			山本 寛
(株)山都屋	〒703-8273 岡山市中区門田文化町 2-11-51			内山 淳
青木浩平	〒709-0876 岡山市東区瀬戸町光明谷 199-6			瀬戸内造園
武田浩晃	岡山市中区赤田 109-5 ポラリス E202			(株)ガーデン四季

13. 編集後記（永富）

創刊号を発刊して1年が経過しました。

わくわくしながら、我々の会報を世に送り出しました。反響はどうだったろうか？

発行に向け、樹木医はどのような目線で樹木などにかかわればよいかに迷っています。樹木はほっといても日々生きていく。目を凝らしてみると、それなりの変化があります。なので、樹木を含む自然に目を向け、関心を持つことによって、声が聴けるのではないかと思います。このような観点から、会報の編集をしていきたいと考えます。

編集（久保、永富、魚井）



事務局

〒700-0004 岡山市北区法界院 3-1 半田山植物園内
(一般社団法人) 日本樹木医会岡山県支部 TEL 086-252-4183

14. 賛助会員入会案内

私達樹木医は、巨樹・古木をはじめとする樹木全般の樹勢回復及び保全に関する知識、技術の向上を図り、環境やふるさとの自然を愛護する気運を高めようと、地域と一体となった活動を進めています。

ややもすれば失われがちな先祖伝来の貴重な樹木の数々を次の世に伝えたい。
身近な樹木を健康で生き生きとしたものに育てたい。地域のみどりのために役立ちたい。
これが私たちの願いです。

この活動を進めていくためにも、緑化関係者及び個人の皆様の賛助会員として御理解をいただき御支援を賜りたいと存じております。

賛助会員に入会していただきますと、岡山県樹木医会の各種活動（研修会・技術指導会）に参加、情報の提供などが可能となります。樹木医及び賛助会員の皆様と共に一丸となって、経験と技術の交流を深めお互いの知識、技術の向上を目指し、本会の発展に努力したいと考えております。

何卒、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

（一般社団法人）日本樹木医会 岡山県支部

記

年間賛助会員 個人：10,000円

法人：30,000円

振込先 ㈱ゆうちょ銀行 （店名）五四八 （店番）548

（普通預金）記号：15420 番号：31820621

（名前）日本樹木医会 岡山県支部

賛助会員 個人	☐	住所
申込書		
法人	☐	住所